令和8年度 中学生の「税についての作文」受賞作品 ＜清水地区＞

賞	学校名	学年	氏名	題名	頁
名古屋国税局長賞	静岡市立清水第二中学校	3年	中村 紬希	「明るい未来」は税金で創られる	2
清水税務署長賞	静岡市立清水小島中学校	2年	稲葉 亘紀	私の考える税金の「正体」	3
清水税務署長賞	静岡市立清水小島中学校	3年	瀧 咲耶	税について考えたこと	4
静岡県静岡財務事務所長賞	静岡市立由比中学校	3年	若菜 舜亮	税は人を救う	5
静岡市長賞	静岡市立清水小島中学校	3年	長谷川 実玖	国民想いの消費税	6
清水税務連絡協議会 会長賞	静岡市立清水飯田中学校	2年	黒川 琉斗	消費税と国民の生活	7
清水納税貯蓄組合連合会 会長賞	静岡市立清水第三中学校	1年	望月 あかり	税がめぐる社会	8
清水納税貯蓄組合連合会 優秀賞	静岡市立由比中学校	2年	遠藤 夢乙	サッカーで知った見えない支え	9
清水納税貯蓄組合連合会 優秀賞	静岡市立清水飯田中学校	2年	堀ノ口 愛菜	あたりまえじゃないあたりまえ	10
清水納税貯蓄組合連合会 優秀賞	静岡市立清水第七中学校	2年	阿形 聡太	「正しい納税」の大切さ	11
清水納税貯蓄組合連合会 優秀賞	静岡市立清水飯田中学校	2年	松川 仁	暮らしを守る、納税という社会貢献	12
清水納税貯蓄組合連合会 優秀賞	静岡市立清水第二中学校	3年	酒井 巴那	税の使われ方	13
清水納税貯蓄組合連合会 優秀賞	静岡市立由比中学校	2年	木村 璃緒	税金の工夫	14
清水納税貯蓄組合連合会 優秀賞	静岡市立清水庵原中学校	2年	小長井 健汰	税金の使い道	15
清水納税貯蓄組合連合会 優秀賞	静岡市立清水庵原中学校	2年	廣田 唯杏	当たり前の暮らしと税	16

※掲載にあたり、一部の誤字等を修正しています。

「「明るい未来」は税金で創られる」

静岡市立清水第二中学校３年　中村　紬希

私は幼いころから「はっきり見える」という経験をあまりしていない。それは幼少期から斜視を患い、ぼやけて見えたり、二重に見えたりしていたからである。年齢が上がるにつれて、もっとはっきり見えたらいいのになと思うことが増えてきた。

学校で税金の学習をする中で、静岡市では子ども医療費助成制度があることを知った。子どもの病気の早期発見や早期治療、保護者の経済的負担軽減を目的として、税金で自己負担金を助成する制度だ。またこの制度は令和八年七月に改正があり、より助成内容が拡充された。私は三人兄弟なので、母はこれまでもこの制度のありがたさを話していたことを覚えている。制度の改正は、子育てしやすい街づくりを揚げる静岡市の魅力が高まるきっかけになるのではないかと考えた。

私は調節性内斜視のため、二歳頃から通院、検査、治療を繰り返してきた。医師から勧められ、矯正の眼鏡で十三年間過ごしてきた。眼鏡をすると平均台の上をまっすぐ歩けるようになったり、バトミントンでシャトルの距離感がつかめたり、これまでできなかったことができるようになり嬉しい気持ちでいっぱいになった。しかし、成長とともに眼鏡での矯正に限界がきたため、昨年眼球の裏の筋肉を切除する手術を受けることになった。術前は恐怖心しかなかったが、終わってみるとこれまでのぼやけた世界が明るくはっきり見えるように変化していた。術前の検査や投薬、術中の処置、術後の診察や検査等、自費で負担していたら相当なものになっていたと思う。この手術を通して、改めて税金のありがたさを感じ、税金によって私たちの生活が支えられていることを実感することができた。

その後、学校での生活では黒板がはっきり見え、学習に集中して取り組めるようになり、今まで以上に前向きに生活できるようになったと思う。税金である子ども医療費助成は本来の目的以上に、子どもの生活を明るくし、前向きに頑張ろうという気持ちをもたらしてくれるものだと思う。

税金の使い方や考え方にはいろいろな考え方がある。ひどい使い方をしてニュースになることもあり、国民として考えていかなくてはならない問題である。国民から集めている税金だからこそ、公平に使用し、透明性が大切だと思う。税金を納めることはもちろん大切だけど、その税金が何に使われているのかを知ることも大切なのではないかと思う。

私が税金によって前向きに取り組めるようになったように、税金はこれからの未来を明るくするために欠かせないものだと思う。将来、自分が社会を支える大人になったときには、国民として責任をもって納税をしていきたいと思う。

はっきり見えるようになった私の目で、明るい未来をしっかり見つめていきたい。

「私の考える税金の「正体」」

静岡市立清水小島中学校２年　稲葉　亘紀

「消費税のことを書こう。」私が税の作文を書こうとしたとき、一番最初に思い浮かんだことです。私にとっての税金は、自分とはあまり関係がないもので、思いつく税といえば消費税くらいでした。正直に言えば、税金に対して「買い物をするときに余分にお金を払わせるもの」という少しマイナスのイメージを持っていました。しかし、作文のテーマを決めていく中で、私の普段の生活が、実は税金によって支えられている事実に気がつきました。

私は小学一年生から地域の少年団で剣道を続けています。私にとって剣道は自分という人間を作り上げてくれた大切な存在です。私の通う中学校は山間地にあるため、生徒数が年々減少してしまい、部活動も少なくなってしまいました。そのため、剣道を中学校の部活としてすることはできず、私は今でも少年団の稽古に参加させてもらっています。

私の所属する少年団は毎週小学校の体育館を使って稽古をしています。小学校の体育館は一回三百円と格安で借りることができます。これは、法律や条例によって利用者が電気代などの費用だけを支払うことで体育館を利用できるよう決められているためです。もし税金がこの世の中から無くなったらどうなるでしょうか。体育館の建設費や修繕費を負担することになれば、月に数万円もの費用がかかり、小さな少年団は活動できなくなってしまいます。税金は私達のような地域に住む小中学生に多様な体験をさせてくれているのです。

小学校の体育館で仲間と一緒に剣道ができることだけではありません。私自身の健康も税金によって支えられています。私は小さな頃から薬をもらうために近所の耳鼻咽喉科クリニックに何度も通っています。病院で検査してもらったところ、私にはハウスダストのアレルギーがありました。今まで、静岡市では中学生の診察にかかる費用は五百円で、薬代は無料となっていました。また、今年の七月からは診察も無料になりました。これらの費用は税金によってまかなわれています。もし税金がこの世の中から無くなったらどうなるでしょうか。貧しい家庭の子ども達は、アレルギーに悩まされても検査や治療を受けることができないかもしれません。税金は全ての子ども達が医療を受けられるようにしてくれているのです。

小学校の体育館でみんなと楽しく剣道ができることも、アレルギーの治療を安心して受けられることも、私にとっては当たり前のことでした。しかし、この当たり前の日常を支えてくれていた仕組みこそが、税金の正体だったのです。夢に向かって挑戦するチャンスを与えてくれる「魔法」、それこそが税金なのだと気づきました。私も将来は納税者になります。税金という「魔法」を使って、次の世代の子ども達が楽しく、健康に過ごせる未来を創っていきたいです。

「税について考えたこと」

静岡市立清水小島中学校３年　瀧　咲耶

「税金の引き上げ、引き下げ、控除」などたびたび耳に飛び込んでくるワード。ただ私は今まで税金についてあまり深く考えたことがありませんでした。税金は大人が払うもので自分には関係のないものだと思っていたからです。

しかし、来年、税金を２年間引き下げるというニュースを見て家族で話をする機会があり、税金は私たちの生活を支えるために必要なお金なのだと改めて気づかされました。私たちが通う学校や通学に使う道路、公園、消防、警察、医療など私たちが普段当たり前に利用しているものに税金が使われていると知りました。

私は、税を下げる動きがあると知り、物価が上がっている今、税金が安くなれば家庭で使えるお金が増えるので生活が苦しい人にとっては助かると思います。私も家族の負担が少しでも軽くなるなら、税金が下がることは良いことだと思いました。

ただ、一方で所得の高い人には多く税金を負担してもらうという動きがあることも知りました。

そこで私は、「公平とはなんだろう」と疑問に思い考えました。

例えば、同じ金額の税金が下がったとしても、収入が多い人と少ない人ではそのありがたさは全く違うと思います。生活に余裕のない人にとっての一万円と、生活にゆとりがある人にとっての一万円では、くらしへの影響が同じとは言えません。だから、全員の税金を同じように下げることが必ずしも公平だとは限らないと思いました。

また、所得の高い人には所得の低い人よりも多く税を負担してもらう考え方があるようです。私は最初、それは所得が多い人にとっては不公平で不満が出るのではないと考えました。たくさん働いて収入を得た人がその分だけ多く払うのは大変だからです。しかし、先ほど考えたように収入に余裕がある人と、生活に必要なお金を得るだけで精一杯の人に同じ負担を求めるのも違うと思いました。

私は「公平」というのはすごく難しいと思いました。全員をまったく同じにしても不満がでるし、所得が高い人から多く払ってもらっても不満があると思います。

その不満が出ないためには、まず税金がしっかりと社会全体のために使われているとみんなが感じることだと思います。ただ、国に取られているお金ではなく、必要な人のために正しく使われて、私たちの生活がよりよいものになれば不満も減ると思います。

私は税を多く払っている人も生活に困っている人も安心して暮らすことができる、そんな公平な社会になるようにこれからも税に関心を持って生活していきたいです。

「税は人を救う」

静岡市立由比中学校３年　若菜　舜亮

その日は起きるのが遅くて、お昼時にもかかわらず、旅行帰りに買ったパンを、朝ご飯として食べていました。私は食物アレルギーをもっており、生まれつき、ナッツ類やそばを食べることができません。そのため、普段から、食品の成分表をよく見て確認するようにしています。もちろんそのパンも、しっかりアレルギー品目の欄を確認し、ナッツやそばの記載はなかったため、安心して口に運びました。

しかし、発作は起きてしまったのです。いつもなら、たとえ発作が起きても、もどしてしまえば段々と治っていくという感じでした。しかし、今回の発作は、いくらもどしても痛みが消えず、むしろ体調は悪化していく一方でした。段々体が動きにくくなり、危機を感じた私は、初めて、救急車を呼ぶことを決めました。

救急車は、わずか２～３分で到着しました。こんなことは初めてだったので、これから自分がどうなってしまうのか、不安でたまりませんでしたが、隊員の方達の迅速な対応のおかげで、段々と安心できるようになりました。その後は病院で療養し、無事退院しました。

私はこの件を通じて感謝したいことが２つあります。1つ目はもちろん、救急隊員さんに助けて頂いたことです。そして２つ目は、税金です。これまで私は、「税金」と聞くと、本来の値段より多くお金をとられているので、あまり良いイメージを持てませんでした。しかし、税金はけして悪いものではなったのです。調べてみると、救急隊員さんの給料は、税金でまかなわれているそうです。私達が何気なく納め続けている税金が、人の命を救うことにつながっている。それを身をもって実感できました。また、考えてみると、私達は税金に助けられていることがいくつもありました。町の整備や災害時の復旧作業、教科書も税金によってまかなわれていました。

私はあと数年で、納税者となります。社会をより良くするため、また、誰かが納めた税金で救われたのと同じように、私も誰かを救うためにきちんと納税していきたいです。

「国民想いの消費税」

静岡市立清水小島中学校３年　長谷川　実玖

私はよく、百円ショップに行きます。そのたびに、一つの商品が百円ではなく消費税を含めた百十円であることに、なぜ消費税を払わないといけないのだろうと疑問に思っていました。また、日本の消費税十パーセントは私にとっては負担が大きいと感じていました。そこで、私たちが納めた消費税はどこでどのように使われるのか、調べてみました。

消費税とは、サービスやものを買ったとき、それ自体の値段にプラスして支払う税金のことです。主に国に納められ、私たち国民の生活を支えるために使われます。例えば、高齢者の年金や医療費、子どもの教育や福祉、災害対策や道路整備などです。日本では一九八九年に初めて導入され、その時の税率は三パーセントでした。その後、日本の高齢化が進み、介護や医療など高齢者の社会保障の維持のためにお金が多く必要になったことで、年々消費税率が高くなり、二〇一九年から十パーセントにまで引き上げられました。このことから、私たちは国民全体で社会を支えるために消費税を納めていることがわかり、とても大切なものであると感じました。

日本の消費税について知ることができたところで、日本以外の国の消費税について興味を持ち、調べてみました。世界を見ると日本よりも税率の高い国が多くあり、ハンガリーは最も高い二十七パーセントでした。私は普段、十パーセントの消費税は負担が大きいと考えていましたが、その二倍以上の税率の国があることを知り、とても驚きました。国によって消費税率は異なりますが、使われ方はほとんど変わらず、消費税率が高ければ高いほど、介護、医療などの社会保障制度が充実しています。ハンガリーでは、医療費や大学までの学費が無料だそうです。調べていくうちに、私は「日本とハンガリーはどちらの方が国民想いなのだろう」と考えました。高い消費税を課す代わりに医療費や学費を無料にするハンガリーは、国民の将来を想う優しい国に見えます。一方で、消費税を比較的安くして購入時の負担を小さくしてくれる日本も国民の今の生活を大切にする、国民想いの国だと思います。消費税が高い国も安い国も、それぞれ違うかたちで「国民のため」を想って税率を決めているのだと気づきました。消費税について考えるとき、得か損かよりも、社会を良くしていくためにどうしたらいいかに重点を置くことが大切だと思います。

このように、消費税は「みんなで集めた、お互いを助け合うための貯金」であり、ただ支払うだけでなく将来の私たちのために使われる税金だと言えます。そう考えると、今までは負担が大きいと思っていた十パーセントの消費税が、そこまで負担だと感じられず、国民のために自分の力を使うことができてうれしいと考えるようになりました。これからは、義務としてではなく社会を支える一助として、消費税を納めていきたいです。

「消費税と国民の生活」

静岡市立清水飯田中学校２年　黒川　琉斗

来年四月から飲食料品の消費税率を二年間限定で一パーセントに引き下げることが、閣議決定されたというニュースがありました。食品は生活する上で欠かせない物で、毎日食べなければ生きていけません。最近物価が上がり、コンビニで買う時も値段が上がったことをよく感じています。毎日の買い物が対象になるため、家計への効果は大きいと思います。みんなの生活がもっと楽になるように、消費税を全てなくしてしまったらどうなのだろうと考えました。

先日、熊本県で大きな地震がありました。二年前に熊本を旅行し、熊本城に行きました。城の周りに足場があって、石垣を直しているところを見学することができました。今回の地震で修復したばかりの石垣が再度崩れている映像をみてとても心が痛みました。もう一回直すのは大変だと思いました。熊本城だけでなく、たくさんの家々が倒壊しました。家や道路、鉄道、水道などのインフラに多大な被害がありました。毎日のニュースで現在の状況が入ってきますが、被害にあった人や市町村だけでは、どうにかなる状況ではありません。
そうした時に政府の支援が決定したというニュースがありました。二百四十二億円の支出をするという内容です。このニュースを聞いた時、税金はこういう時のためには、絶対に必要だなと思いました。国民個人としては、そんな大金は到底出すことはできないからです。

税金は、憲法で定められた国民の義務で、ひとりひとりが納めたお金が集まると、莫大な金額になります。消費税減税によって生活への負担は確かに楽になりますが、その分、集まる税金の額は少なくなります。そう考えたときに、消費税減税に喜んでいるばかりではいられないと思いました。国や地方自治体に入った税金が、どんな場面でどんな風に使われているのか、あまり詳しくは分かっていないけれど、人々の生活がよりよく、安心安全のために役立つのならば、やっぱり税金は必要なんだと思いました。

今回の消費税減税と、熊本地震支援の決定のニュースをきいて、税金に対しての考え方や使い道は、ずっと決まっているものではなく、その時その時の状況やニーズによって、変えていっていいもので、それは税金を納める国民の願いに反映されるものだということを感じました。

これからは、税金にはどんな種類があってどれくらいの金額があり、それが何に使われているかにもっと関心をもちたいと思いました。そして、どのように集め、どのように使うかは、国民である自分たちの考えが反映されるので、税に対する知識を深め、考え続けていきたいと思います。

「税がめぐる社会」

静岡市立清水第三中学校１年　望月　あかり

私が税について考えようと思ったきっかけ、それは最近、ニュースで多く取り上げられているからだ。税金は大人にだけ関係があるものだと思っていた。けれど、税金が集められている背景には、私たち子供の未来へとつながる大切な役割があった。

では、税金はどのようなことに使われているのだろう。税金の多くは社会保障に使われていた。これは、年金、医りょう、子育て支援など私たちの生活と健康を守るための費用のことだ。また、道路などの公共事業関係費や学校の運営、教科書の支給など私たち小中学生にも税金は使われていた。さらに、先日起こった熊本地しんにも私たち子供でも関わっている消費税や子供名義の預金にかかる所得税などが熊本地しんの復旧、復興資金として使われた。私は思っていたより、もっと身近な場所で税金が使われていると知りとてもおどろいた。

では、もし色々な場面で使われている税金が無くなってしまった場合、私たちの生活にどのような支障が出てくるのだろう。私が調べた結果、一言でいうと「全ての公共サービスが有料化し、社会全体がマヒする」ことになった。例として、治安と安全がほうかいする、インフラが使えなくなる、医りょう費と教育費が超高額になる、弱者を守る仕組みが消えるなどほとんどの人の生活は今よりも苦しくなり、社会全体が危険な場所となってしまうのだ。では、逆に私たちの手元に残るものは何があるのだろうか。所得税や住民税、消費税がゼロになるため、短期的には自由に使えるお金が増えるかもしれない。しかし、今まで税金によって支えられていたものを自分で負担しなければいけなくなる。そのため、救急車などにもお金がかかり、安心して生活することが難しくなってしまうのだ。当たり前だと思っていた生活や環境は、税金があるからこそ成り立っているものなのだと感じた。

税について考えてみると、色々な場所や場面で税金が使われているのだとわかった。税金が集められていることにより、学校や道路、消防や警察など私たちの身近に使われ、それによってたくさんの機関や私たち自身の生活が支えられていることを実感できた。この勉強を通して、今話題となっている消費税減税という案に対し、私はあまり賛成できないと思った。なぜなら、色々な場所で使われ、たくさんの人々を助ける手段の一つでもあるし、たったの二年で本当に日本の景気が良くなるかわからないからだ。私も将来、税金を納める立場となるため、今のうちに税にふれ、大切さを理解して社会の一員となっていきたい。

「サッカーで知った見えない支え」

静岡市立由比中学校２年　遠藤　夢乙

僕が初めて税金について考えたのは、小学六年生のときです。学校で税金について勉強して、税金をテーマにしたポスターを描きました。その時、税金はみんなの生活を支えるために必要なお金だと知りました。しかし、その頃の僕は、税金は大人が納めるものというイメージがあり、自分にはまだ少し遠いものだと思っていました。

中学生になり、僕はサッカー部に入りました。チームメイトと一緒に練習を頑張り、仲間と声をかけ合いながら活動しています。そんなある日の練習中、チームメイトと頭をぶつけてしまいました。

その時は何が起きたのか分からず、不安な気持ちになりました。でも、すぐにチームメイトや先生が駆け寄って声をかけてくれました。先生はお母さんに連絡をしてくださり、僕の様子を見ながら救急車を呼ぶことになりました。

救急車に乗るのは初めてで、とても緊張しました。しかし、救急隊の方が優しく声をかけながら対応してくださり、少し安心することができました。病院で検査を受けた結果、大きな異常はなく、家族や先生、チームメイトも安心してくれました。その時、周りの人に支えてもらっていることを感じました。

救急車はお金を払わずに利用できることは知っていましたが、なぜそのような仕組みになっているのかは考えたことがありませんでした。そこで、税金の使われ方について調べてみました。

調べてみると、税金は学校や道路だけではなく、消防や警察、病院など、ぼくたちが安心して生活するために使われていることが分かりました。税金は目に見えるものを作るためだけではなく、困った時に助けてもらえる仕組みを支えていることを知りました。

今まで僕は、税金は自分にはまだ関係のないものだと思っていました。しかし、調べてみると、学校で学べることや安全に生活できることなど、普段当たり前だと思っていることにも税金が関わっていることに気がつきました。

小学六年生のときに描いた税金のポスターは、その時は学校の課題でした。でも今は、自分の経験を通して税金について考えるきっかけになりました。これからは、税金がどのように使われているのかに少しずつ関心をもち、将来は僕も誰かの役に立てる人になりたいです。

「あたりまえじゃないあたりまえ」

静岡市立清水飯田中学校２年　堀ノ口　愛菜

私が以前、妹の病院についていった時、医療費が無料になっていることに、気付きました。実際の医療費は、数万円であるということを聞き、とても驚きました。この医療費はどこから出されているのだろうと思い、調べてみました。

私の住む地域では、「子ども医療費助成制度」という制度が適応されていることを知りました。しかし、医療費が無料になってしまえば、病院の経営を続けることは難しくなってしまいます。そこで、私たちが支払っていない分には、「税金」が使われているということを知りました。私はこの制度が生活の中で「あたりまえ」になっていることに気付きました。他にも、道路が整備されていたり、私たちが安全に学校へ通うことができているのも、私たちにとってあたりまえになっています。

もし税金がなかったら、生活を支える消防や救急、警察などのサービスを今のように使用することがとても難しくなります。また、「子ども医療費助成制度」も受けることが難しくなり、家庭の負担が大きくなってしまいます。私たちの「あたりまえ」の裏には「税金」という支えが隠れているのです。

「他にどのような場所で使われているのだろう。」と考えた時に私は思っているよりも税の使い道について詳しく知りませんでした。調べてみると、保護された動物の管理や、図書館・博物館の運営、地震や台風などの災害支援にも使われていることを知りました。また、森林の管理や文化財の保存などあげればきりがないほどたくさんありました。どれも私の中であたりまえであることには税金が使われていました。様々な場面で使われている税金は私たちにとって必要不可欠なものになっています。

そこで私たちができることはないのでしょうか。税金が使われている公共施設や道路などを大切に使ったり、税の無駄使いを防ぐことが大切だと思います。また、税金に関心を持つことも大切だと思います。私自身はまだ税金を納めるという立場ではなく、税金に助けられています。将来は、社会を支える納税者であることを意識したいと感じました。そして、「税金」があることに感謝をし、「あたりまえ」に頼りすぎないようにしたいと思います。

「正しい納税」の大切さ

静岡市立清水第七中学校２年　阿形　聡太

ある日、家で脱税の取り締まりに関するテレビ番組を見ていた時に、ふと疑問に思った。なぜこんなにも脱税がなくならないのか。本来、国民全員が正しく納税していれば、このような取り締まりは不要になるはずだ。それでも全国各地で、今でも取り締まりが行われ報道されている。

日本国憲法第三十条「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ。」という条文は私たちにとって、特に大人にとっては非常に重要なものである。しかしこれを遵守しない人もいるというのが現実。

実際に、国税庁が発表している「令和七年度　査察の概要」では、この年に査察に着手した件数は百三十一件だという。また、令和七年度までに査察した事案のうち、悪質だと判断して検察に告発した件数は八十二件。脱税額の総額は加算税含め百十億円を超える。

しかしこれは、「査察」という「特に悪質な脱税者に対して刑事責任を追及するための調査」の数字である。これに一般的な「税務調査」も加えれば、相当な額になる。

例えば、名古屋国税局での令和六事務年度調査で、「個人事業者の消費税」「所得税」「相続税」の追徴税額は合計三百二十四億円以上。申告漏れ等も含むとはいえ、東海地方四県だけでこの金額である。本来納めるべき税金を納めなかったことによって、これだけの金額が追徴課税されている。全国単位で考えると、相当な金額になることは簡単に予想がつく。

では、この額が正しく納められていたら。例えば令和七年度予算で考えると、自分が住んでいる静岡県では、防災や減災に関わる公共事業が合計三百二十六億円をかけて行われている。これは先述の追徴税額とほぼ同じであり、東海地方で１年間に納められる追徴税だけで、県に関わる重要な事業の財源がほぼ賄えることになる

自分はこの事実を知り、改めて税金を正しく納めることの重要性を感じた。国家予算の規模で考えれば三百億円は千分の一にも満たないごくわずかなものだが、それが積み重なれば、国民の生活に役立つ様々な政策や公共事業となる。

そして、税金の使い道は多岐にわたっているため、支出を削減することが難しいものもある。その結果、税収が減ってしまえば地方の財政が悪化し、公共サービスを削減せざるを得なくなることも考えられる。そうなれば、巡り巡って自分たちに返ってくるうえ、正しく税を納めている多くの人にまで多大な迷惑をかけることになる。

この学びを通して、将来自分が税を納めるという自覚を再確認するきっかけとなった。そして、あらゆる脱税が世の中から無くなり、すべての人が正しく税を納める世の中になることを願う。

「暮らしを守る、納税という社会貢献」

静岡市立清水飯田中学校２年　松川　仁

「減税」という言葉を聞くようになったのは、二月の衆議院選挙からだ。その選挙ではほとんどの政党が、減税に関する主張をしていた。また、政府は、来年四月から二年間限定で消費税を一％に引き下げる政策を打ち出した。

僕は最近、文房具をよく買う。中学生の僕にとっては、文房具は単価が高い。だから、消費税が低くなったらうれしい。物価高もあるから助かるな、と思った一方、そんなに下げてしまっていいのかとも思った。なぜなら税金は、インフラやサービスの整備などに使われているからだ。僕は、去年の一月に、道路が陥没してトラック運転手が亡くなった事故が忘れられない。また、今年の七月には、熊本で大きな地震が起こった。調べてみると、そういったインフラの整備や災害の復興事業には、税金が使われていることがわかった。今回の熊本地震では、約二百四十二億円の支援金が税金から出されているそうだ。僕は正直、地震が怖い。だから、減税をしたことで、災害時の公助や復興に使えるお金が減ってしまったら、と思うと少し不安になった。

ふと、外国の税について知りたくなり、税金の高い国を調べてみた。すると、スウェーデンやデンマークなど欧州の国は税金が高いことが分かった。それでも、税金は正しく納められている。それは、医療費や教育費が無料で、税金を払えば恩恵が受けられるという実感が人々にあるからだろう。一方で、日本が増税したとき、「国の予算が足りない」という理由で増やしたという。そういう増やし方だと、納税することに対して不満をもつ人が出てきてしまうと思う。僕も、「安心安全な生活のため」と言われた方が、素直に税金を払う気になると思う。

何も考えずに払う税金は、ただお金が出ていっていると感じるだけかもしれない。難しいかもしれないけど、自分が払った税金で、道路ができている、医療を受けられている、被災地の人々の力になれている、と考えながら税金を払う。それが、最低限の社会貢献だと思うし、とらなければいけない姿勢だと思う。僕は、それができる大人になりたい。

まだ僕は中学生で、消費税以外の税金を払うことはない。でも、自分の生活の中の様々なところに税金は使われている。税金について知らなければ、税に対する思いは変わらない。将来、正しく納税できる大人になるために、今回学んだ、「税金は、ただお金をとられているのではなく、サービスやインフラの整備や災害復興に使われている」ということをはじめ、税金がどのように使われているのか、理解を深めていきたい。ルールを知らなければスポーツができないように、税について知らなければ必ず困ることがあると思う。だから日頃から、ニュースを見たり、税について調べたりして、「最低限の社会貢献」ができる大人になれるよう、考えていきたい。

「税の使われ方」

静岡市立清水第二中学校３年　酒井　巴那

私は、税の存在を疑問に思うことがよくありました。例えば、以前百円ショップで買い物をしたときに、商品の十パーセントも何に使っているのだろうと感じました。さらに、両親が「税金が高くなったよね」と話しているのもよく耳にしました。とても身近だけれど、なぜいつも税金を払わなければならないのだろうと思い、税金の使われ方について調べてみました。

スマートフォンで調べてみると、税金は主に「社会保障」に使われているとわかりました。具体的には、病院や怪我の治療費、高齢者の年金、介護サービスなどだそうです。

また、勉強中にふと教科書を見ると、「この教科書は税金によって無償で支給されています。」という文字がありました。普段使っている教科書は税金によって私たちのために提供されているのだと知りました。税金は学生である私たちにとって感謝するべきものなのだと感じました。

私が他に気になったことは、介護サービスについてです。私の曽祖母は、老人ホームで暮らしています。家事をすることがとても好きで、老人ホームでも何か手伝いすることはないかといきいきと過ごしているそうです。そんな老人ホームの運営にも、高齢者の介護を社会全体で支えるために行われている、介護保険制度という制度を通じて税金が使用されています。高齢の曽祖母を常に見守ってくれて、曽祖母自身も楽しく過ごせる老人ホームは、家族にとってとても安心できて大切な場所です。税金を払わないと、たくさんの自宅での介護が難しい人々が苦しい思いをします。このことを知り、税金は必要不可欠なんだと実感しました。

私たちが払っている税金は、私たちがよりよい生き方をしたり、老若男女問わず家族が健康に生きたりするために使われているということがわかりました。ただお金を取られているのではなく、巡り巡って私たちのもとへ帰ってきていたのです。初めはあまりいい印象ではなかった税金ですが、これからもしっかりと支払っていこうと心に誓いました。

「税金の工夫」

静岡市立由比中学校２年　木村　璃緒

私はいままで、なぜ税金というものがあるのか理解していませんでした。しかし調べてみると、税金は私たちの生活に必要不可欠なものだとわかりました。例えば、小学校から中学校の九年間で使う教科書は、税金によって無償で支給されています。また、ゴミを回収したり、燃やしたりする時の費用にも、税金が使われています。そのため、税金がないと私たちは莫大なお金を支払わないといけなくなってしまいます。

税金について調べていくうちに、同じ消費税でも税率に違いがあることを知りました。なぜ食べ物と食べ物以外のものにかかる消費税の税率は違うのでしょうか。

私は、食べ物は生きるためにはかかせないものなので、他のものと比べて税率が低いのではないかと考えました。調べた結果、生きていくために絶対に必要な食べ物の税率を低くし、生活が苦しい人の負担を減らしているのだとわかりました。

消費税は同じ商品を買えば誰でも同じ金額を払います。しかし、収入が少ない人ほど生活費の多くを食費が占めるため、消費税の負担を多く感じやすいです。そのため、食べ物は八パーセント、食べ物以外のものは十パーセントと決められています。この制度は、国から生活が大変な人々への配慮だと感じました。食べ物の税率が低く設定されている理由は、私たちの生活を守るための工夫なのだとわかりました。

また、風邪を引いたりけがをしたりして病院に行き、治療を受けても、私たちが支払う治療費には税金がかかりません。その理由は、病気やけがで苦しんでいる人の負担を少しでも軽くするためです。この制度も国が私たちの生活に配慮しているものだと感じました。

「なぜ食べ物と食べ物外のものにかかる消費税の税率が違うのか」という疑問の答えは、収入の多い人と収入の少ない人の税の負担をできるだけ公平にするための国の工夫だということがわかりました。しかし私は、食べ物以外にも生活していくうえで必要不可欠なものはあるのではないかと考えました。例えば、服なども食べ物と同じように消費税の税率を低くしたほうが、より多くの人が豊かに生活できるようになるのではないでしょうか。

税金は、国がいろいろな工夫をして設定したものであり、たくさんの人に配慮されていることに気づきました。これからは、税金に支えられていることに感謝しながら、その使われ方や仕組みなどに関心をもって生活していきたいと思いました。

「税金の使い道」

静岡市立清水庵原中学校２年　小長井　健汰

税金には、いくつかの種類があります。一番身近なものは「消費税」これは子供でも大人でも必ず払ったことがあり、皆知っています。他にも、「所得税」、「住民税」や「酒税」など数多くあります。

この税金たちはどういったものなのでしょうか。まず消費税は、物やサービスを買ったときに支払う税金のことです。この税が始まったのは一九八九年でした。次に所得税では個人の所得、言わば給料に対してかかる税金であり、所得税は所得が多ければ多いほど税率も高くなります。次は、住民税。住民税は、住んでいる都道府県、市区町村に納める税金です。最後は、酒税です。これは、日本酒やビールなどお酒にかかる税金です。お酒の製造者または輸入者が納税しますが、税を負担するのは消費者です。

この税金たちに対してよく「税率を下げろ！」と言っている人を見かけますが、確かにその通りだと思います。

そもそも、税金は何のために使われているのでしょうか。まず初めに思いつくものは、社会保障です。それは年金、介護、福祉や少子化対策にあてられています。これは国民が安心して生活できる基盤を税金によって支えている制度であり、これがないと多くの人が困ります。例えば医療費がとてつもなく高くなり、年金ももらえなくなり、介護や少子化対策もあまりとられなくなります。そうなると困るのは国民なので、これは重要なものだと言えるでしょう。次にインフラ整備です。そういわれてもパッとしないと思いますが、私たちが日常的に利用している道路や橋、水道、港など多くの公共の場所にインフラ整備が施されています。これによりきれいな場所を利用できています。なので、これも重要なものだと言えるでしょう。次は、教育です。私たちが学校で利用している教科書は、未来の日本を担う私たち生徒に向けて、税金により無償で提供されています。これにより子供を支えている保護者の方たちの負担も減らしているので、同時に育児補助をしていると言っても過言ではないでしょう。

このことから、税金は私たちの生活に必要不可欠なものであると言でえるでしょう。なので、これからは税金に感謝して生活していこうと思いました。

「当たり前の暮らしと税」

静岡市立清水庵原中学校２年　廣田　唯杏

きっと、だれしも一度は「税がなくなればいいのに。」と考えることがあるだろう。少なくとも私はそう思った。正直、無駄なお金がかかって、値段のキリも悪いから、なぜあるのか疑問に思った。「もしも税が無くなったら。」この問いについて考えてみる。

まず、税が無くなって起こるいいことを考えてみる。もちろん税が無いから手元に残るお金が増え、買い物が安く感じるという利点がある。また、家計に余裕ができ、自分の趣味や旅行などにお金を使いやすくなる、お金を使う人が増え、会社が儲けるという可能性もある。ここだけ見ればいい話に思える。しかし、リアルな生活を想像すると話が変わる。ここからは税の無い世界での悪いことを考える。税金で動くものは思っているよりもたくさんある。例えば私達が今、通っている学校もその内の一つだ。さらにその中で例えるなら教科書もふくまれる。教科書の裏に書いてある「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切につかいましょう。」小さいころは気にもとめなかったこの文字。教科書はタダではなく先に税金によって支払われている。つまり、税がなければ教科書は有料になっているかもしれない。ましてや、学校に行くのにもお金がかかるかもしれない。貧しい人たちは学校に行くこともできないかもしれない。税がない世界の悪いことはまだある。救急車や消防車、警察の活動も税で成り立っている。税がなくなれば、警察や消防車を呼ぶ時にお金を払うかもしれない。そうするとすぐに呼ぶことができなくなり、大変なことになるかもしれない。

ここまで見たら考えも変わる。税がなければもっと楽に生きれると思ったけれど、実際はいつも当たり前だったことができなくなって今より生きづらくなるのが分かった。

税はただ大事なものではなく、みんなの暮らしや生活を陰で支えている柱ということなのだ。